

JP 352005123 A
JAN 1977

(54) WINDOW WIPER

(11) Kokai No. 52-5123 (43) 1.14.1977 (21) Appl. No. 50-81718

(22) 7.1.1975

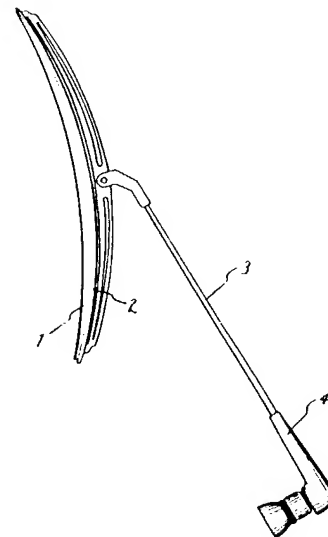
(71) MITSUNORI MAKITA (72) MITSUNORI MAKITA

(52) JPC: 80H0

(51) Int. Cl². B60S1/32

PURPOSE: Wiper body is made of transparent material to prevent disturbance of visibility.

CONSTITUTION: Elastic member 1 and a retainer 2 of the elastic member 1 are made of transparent material, to prevent disturbance of visibility.

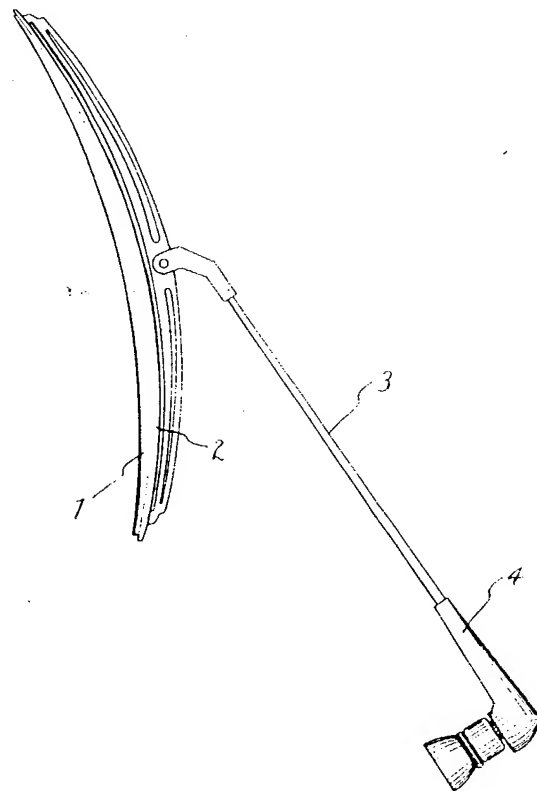


もたらしていたが、ワイパー本体部分が透明な
為、その作動による視神経への一定刺激よりも
両面の風景のうつりかわりが優り、催眠効果を
もたらず、安全運転に供しうる効果がある。
(3) 自動車においては、その外観上フロントガラ
スに透明体が装設された状態である為、外観上
のスマートさを失わない。

図面の簡単な説明

図面は本発明のウインド用ワイパーの新視図。

- 1：ゴム片部分
- 2：ゴム片固定部分
- 3：腕金部分
- 4：腕金基端部分



特許出願人
代理人

時 田 光 典
矢 野 武

(3)



①9 日本国特許庁
公開特許公報

①特開昭 52-5123

④3公開日 昭52.(1977) 1.14

②1特願昭 50-8/718

②2出願日 昭50.(1975) 7.1

審査請求 未請求 (全2頁)

庁内整理番号

622136

⑤2日本分類

80 H0

⑤1 Int. Cl²

B605 1/32

特 許 願 ()

昭和 50 年 7 月 1 日

特許庁長官 斎藤 英 雄 殿

1 発明の名称

ウィンド用ワイパー

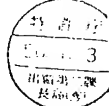
2 発明者
住 所

氏 名 (特許出願人に同じ)

3. 特許出願人

住 所 北九州市小倉北区三郎丸1丁目7-15

氏 名 藤 田 光 典



4. 代理人

住 所 福岡市博多区博多駅前1丁目1-1博多新三井ビル9階

氏 名 (印) 弁護士 矢 野 浩 隆

5. 添附書類の目録

- | | |
|----------|----|
| (1) 委任状 | 1通 |
| (2) 明細書 | 1通 |
| (3) 図面 | 1通 |
| (4) 願書副本 | 1通 |

明 細 書

発明の名称 ウィンド用ワイパー

特許請求の範囲

従来のウィンド用ワイパーにおいてゴム片部分及びゴム片固定部分の各素材を透明体としてなるウィンド用ワイパー。

発明の詳細な説明

従来、自動車等の操縦者席前の前面窓ガラスに装設したウィンド用ワイパーは、ゴム片部分は黒色に、同ゴム片固定部分は金属色になっている為、作動時において、操縦者の視界をさえぎり、直接的に視界の障害とはならないが、間接的に視覚に断続的な刺激を与え、操縦者の疲労を生起し、或は一定間隔の定作動は催眠効果をもたらし、雨降り時の自動車事故につながっていた。

この発明は従来のウィンド用ワイパーにおいてゴム片部分及びゴム片固定部分の各素材を透明体としてなるウィンド用ワイパーに係るものである。
なお、従来のウィンド用ワイパーのゴム片部分を透明体に替えるには、軟質合成樹脂その他特殊ゴムの

使用により、磨みきり支障のないものを利用する。
又、ゴム片固定部分は硬質合成樹脂を利用し、しかも透明素材を使用する。

又、ゴム片固定部分に連設した腕金部分及びその基端部分をも透明とすれば更にその作動とともに視覚への刺激を抑制できる。

又、図中符号1はゴム片部分、2はゴム片固定部分、3は腕金部分、4は腕金基端部分である。

この発明によれば次の効果をもたらす。

(1) ワイパーの本体部分を透明体素材としたため、作動時に視覚を刺激することが少なく、従って視神経の疲労がほとんどなく、雨天時の長距離運転には特に効果を奏する。

(2) 作動時の視神経の刺激がないのみならず、従来のワイパー本体の作動時においてはゴム片部分、ゴム片固定部分等間隔の一定距離、一定時間、一定動作が行なわれることにより、運転者に精神的な安定を生起し、目前の風景のうつりかわりにより刺激より、ワイパー本体の一定作動による精神安定が優って、一種の催眠効果を